

「道徳」の授業において

児童に積極的に話し合いに取りくませるための一提案

足利市立三重小学校教諭 河内 忠之

1. はじめに

今年度前期、念願がかなって道徳教育について半か年の内地留学という機会を得ることができた。

その間、道徳教育に関する研究物に数多くふれるとともに、熱心に研究を進めておられる県内の先生方や大学の先生方とも、何回か話し合うことができた。とにかく、見るもの、聞くものすべて勉強という貴重な機会であったことを心から感謝している。その一端を「道徳的心情を高めることをねらった指導の評価」という形で報告させていただいた。

しかし、その中において、ひじょうに残念なことには、研究と指導の不足から、役割演技の指導例をのせることができなかった。まだまだ、実践例としてとり上げられることができるほどの指導をしてこなかったのである。そんな反省の上にとって、3学期には、ぜひその具体例をとりあげ、先生方のご批判、ご指導をお願いしようと考えて、何回か授業の中にもとり入れてみた。しかし、まだまだ学級内における耕し方が不十分だったために、いつも不満を残したままで終わり、ついにこの機会に報告することができなくなりました。勇気をふるって、失敗の事例として報告させていただこうかとも考えたが、次の機会を待つことにした。

そこで、今回は、よく利用されているテレビ視聴の中から扱った事例について報告させていただくことにした。

本校でも市内のほとんどの学校と同じように、テレビの継続視聴をしている。ゆえに、テレビが資料の中において占める割合はひじょうに大きい。

40分の時間のうちの20分をテレビに費やすということから、残された20分をいかに有効に使うかということが、いつもつきまとう問題であり、重大であるにもかかわらず、解決の道が見出されないままになっている。今までの授業のあり方をふりかえってみても、教師の側から出された問題について話し合うということが多かったように思う。そのため、児童たちの側からすれば、それだけ切実感に乏しいわけである。以後の学習の進展はおよそ想像がつく程度のものでなくなったのである。児童の例からすれば、もっともっと日常生活に直結するような強い問題意識をもっているものがあつたかもしれないのである。こういうことは、今までにも、何とかしなければいけないと考えつつ、つい手の出なかったのが本音である。

ここに取り上げた事例は、児童に切実感をもたせる、解決への意欲をもたせるような問題点の見出し方はないだろうかと考えて少しずつ歩みはじめた指導の一つである。こんなことは、たくさんの先生方が日頃行っている方法であるかもしれない。いや、とうぜん行っているものと思ひ、先生方の御指導、御批判をお願いしたいために、あえて、ここに提案してみたわけである。

2. 指導をするまえに

テレビ視聴前に、視聴の観点について話し合うということは、わたしの学級においては、継続視聴しているということや、日課表とのかかわりあいからほとんど行っていない。今ふりかえってみるに、テレビ視聴後の第一声はどういうのが多かったろうか。感想を発表させ、話し合わせながらその中から問題点を引き出していくというのは、先生方と同様に、わたしのよく用いる方法である。

また、単刀直入に、ズバリ教師の発問でその核心にふれる話し合いにはいる方法もよく行ってみたものである。さて、ほかにと考えると、なかなか次の方法が浮かんでこないものである。いくらよい方法であったにせよ、いつもこれでは、児童に自ら問題点を見出し解決していこうという意欲や能力を身につけさせることはできない。確かに限られた時間内に、ねらいとするところまで、進めるには上の方法はよいかもしれないが、これでは、児童はいつになっても受け身である。

そこで、ときには、一主題2時間として取り上げ、問題点を児童の中から出させる方法を行ってみたらどうだろうかと考えたのが、ここに取り上げた事例である。

以上のような意図から、2時間の過程を次のように考えてみた。

テレビ視聴 → みんなの問題とし 左のことについて 全体で話し合 全体の話
て話し合った方が → て、グループ内 → って問題点を → し合いへ
よいと思うことを で話し合う。 しぼる。
ノートする。

次に、「学校放送」の2月7日「ともだちクイズ」のあらすじやねらいを読んで、このテレビを視聴させた後には、何について話し合わせたらよいかを考えた。その結果、次の2点を中心になるのではないかと予測した。

- ① 望遠鏡のまたがしをしたキンちゃんをどう思うか。
- ② カンの友情に対する考え方をどう思うか。

これらの前提にたって、この主題についての指導を、2時間にわたって考えてみた。

第1時……・テレビを視聴し、自分はどんなことについて話し合ったらよいと思うかをノートに書く。

第2時……・問題点をいくつかの類にまとめたもの(教師作成)を見ながら、グループ毎に、どれを一ばん問題として取り上げるべきか話し合う。

- ・ 各グループの話し合いの内容を発表し合い、さらに、学級で何について話し合ったらよいか、問題点をしぼる。
- ・ しぼった問題点について話し合う。
- ・ 信頼・友情とはどういうことかはっきり確認する。
- ・ この場合、カンジはどうすればよかったか、キンちゃんはどうすればよかったか話し合う。
- ・ 2時間の学習を通して、今後の生活に生かしたいと考えたことをノートにメモする。

授業をするにあたっては、指導案をたて、それに基づいて行うことが理想であらうけれども、いつの場合にも実行することは困難である。そこで、今回は、上のようにほんとうに主な授業の流れ

とねらいを次のように設定しただけで授業を行ってみた。

ねらい 友人を信頼し、友情をうら切らない。

3. 指導をしてみても

(1) テレビ視聴をして

20分間のテレビを視聴したのち、そのような発問をし、各自にその考えをノートさせた。

あなたは、だれのどのような行動について話し合うことがいちばん大切だと思いますか。(8分)

その結果をあげてみると次のようになる。

ア だれの行動を一ばん問題としているか。(対象別に見る)

キンちゃんの行動に問題があると記述したもの	14人
カンジの "	5人
キンちゃんとカンジの両者 "	11人
キンちゃんも含めてかりた人全部 "	4人

このように、キンちゃんの行動について話し合うべきだとの児童が多い。その内容をさらに詳しくみると、

イ キンちゃんのどのような行動や考えを問題としているか。

① キンちゃんが望遠鏡のまたがしをしたこと	10人
② 自分では、カンジとの約束を破ってまたがししているのに、友情をうらぎられたとか言っていること	1人
③ またがしをして、こわれた責任は他の人におしつけていること	1人
④ 「親友だろう。」と言ってカンジから無理にかりていったこと	2人

ほとんどの児童が、キンちゃんがカンジとの約束を破って、またがしをしたことを悪いととらえ、そのことについて話し合った方がよいと記述しているのがわかる。これは、ごくあたりまえのような結果ではあるが、逆にいえば、このことに気づかないようでは困るのである。

しかし、この程度の段階に気づいただけではいけない。どうしても表イの②③④のようなところにまでも気づくようになってほしいものである。②～④あわせて4人。このまま話し合いなしで、テレビの見せっぱなしで終わる授業であったならば、何の向上もなく、現段階にとどまっているのみである。ここに、テレビ視聴後の話し合いの大切さがあるものと思う。

ウ カンジの行動に問題点ありとしたものは、どのように考えているのだろうか

① ほんとうは、かしたくないのに、友情のむすびつきがはなれてしまうからと考えてかしたこと。

- ② カンジが、キンちゃんにけんかをしかけるように話しかけていること。
- ③ カンジの自分に罪はないんだという考えと、その考え方によって起こされた問題について

どうしても、児童の目がキンちゃん批判にむいてしまうと思われるのに、カンジに問題点ありとしている児童は、その観察眼はさすがに鋭いと感じた。

たとえば、③の側にあげた児童は、次のように記述している。

ほんとうに、カンジには悪いところはないのか。

- ① カンジは、キンちゃんがまたがしをして友情をうらぎったのだといっているが、そこを自分で許してあげなくては、人にそんなことは言えない。
- ② だから、先に裏切ったのはキンちゃんだと言って許してあげないのも、友情を裏切ったことだ。
- ③ カンジは、後になってようやく、ほんとうにキンちゃんだけが悪いのかを考え始めたが、まだ、自分は悪くないと言っているのはよくない。

表ウの①の例や上の例などのように、少しでも「友情」ということまで考えているのは、ごくわずかのすぐれた児童のみと言える。こういうのは、クラスにあっても1、2名しかいないのがふつうである。他の児童は、やはり、この高度のところまでは気づかない。そこで「こういった点からも、この問題を考えていかなければならないのか」「そういうことも気づかなくてはいけぬのか」と、多方面から問題をみていける能力を養うためにも、ぜひ、話し合いの時間をとる必要が生じてくるのである。

エ カンジにも、キンちゃんにも問題があるとしている児童たちは、どんな考え方をしているのだろうか。

- カンジに対して
- ① わけも聞かないで、キンちゃんがこわしたときめつけていること。
 - ② うるさくさいそくしたこと。
 - ③ 自分が貸したのに、こわしたのは自分じゃないのだから、責任がないという考え。

キンちゃんに対して

- ① カンジに裏切られたと言っていること。
- ② またがしをしたこと。
- ③ またがしをしたのに、そのことをカンジにいわないこと。
- ④ 友情についての考え

この種のまとめをしていくと感じることであるが、児童の日常の行動のしかたや考え方が、このような表現の中によく表わされているものである。

S児

「わたしだったら、『わたしのお金で買ったんだから、貸さなくたってわたしの自由だろう。』と言いかえし、ぜったいに貸さなかったのに。カンジがなぜ貸したのかわたしはわからなくなってしまった。わたしは、そんな人に貸す勇気があるならば、貸さないといじをはる勇気があってもよいと思っている。」

この児童は、今でこそ自分の心を素直に文章表現したり、明るく友だちと遊んでいるが、10月頃までは、友だちが親切に忠告してやってもそれを入れないどころか意地をはったり、暗いかんじがしていたものであった。よくなってきたとはいえ、こんな表現の中に、「自分のものなんだから自分のかってだろう。……」という形でちょっぴりのぞかれているように思える。

また、おだやかな性格であるT児（男）は、次のように記述している。

「カンジとキンちゃんの友情についての考え方に問題があると思う。友情とは、ぼくの考えでは、思いやってやったりすることだと思う。」（児童の記述のまま）

さらに、O児（男）を見ると、また別の性格がうかがわれる。

「カンジが天体望遠鏡を人に貸して、返ってきたらこわれているので、べんしょうしろとうるさくいうのでぜっこうになった。天体望遠鏡をまたがしするの悪いけれど、カンジもそううるさく言うことはいけないと思う。」

この児童は、けんかなどひじょうに少なく、はげしい外遊びも苦手である。けんかの少ない原因は、「うるさく言うことないと思う。」という生き方にもあるのではないかと推測できる。

このように見ていくと、児童が記述したものには、登場人物に対する批判という型を通して、児童各人の生活に対する考え方・生き方というものが、しぜんのうちに述べられてくるものが多いと思われる。このことは、直接テーマとの関係はない問題ではあるけれども、児童に書かせるということのよさが大切なことを意味しているのではないだろうか。

展開中のあるあらたまった段階で「ふだんのあなたならどうしますか」などと問われても、なかなか素直に自分の姿勢を反省し、発表することは困難なものである。それがこのような過程においてならば、ごくしぜんのうちに自分のありのままのすがた、考え方をのべ合うことができるのである。

この段階において、教師が児童をよくは握しておけば、以後行われる話し合いにおいて、いきづまったり、たてまえ論のみに走ったりしてしまうときに、適切な助言を与えることができ、生き生きとした学習がなされるものだと思う。

だいぶ本論からはなれたことについて述べてしまったので、このあたりでもう一ど、本筋へもどして、次へとすすめたい。

(2) 話し合い（グループ → 全体）

児童のノートに目を通した後、次の時間には、次のように問題点を整理して児童に提示してみた。

「だれのどういう行いについて話し合ったらよいだろうか」

- | | |
|-------|--|
| キンちゃん | ① 約束をやぶってまたがしたこと |
| | ② カンジにうらぎられたと言っていること |
| | ③ 「親友だろう。」と言って、むりに借りたこと |
| | ④ またがししない約束で借りていながら、他の人に貸してしまい、こわれたら、こわした相手に全部責任をおしつけていること |
| カンジ | ① かすのがいやなのだから、かさなければよいのに貸したこと |
| | ② こわされてしまったら、けんかしかけるみたくキンちゃんに言ったこと |
| | ③ 自分には罪がないと考えていること。 |

そして、グループ毎に、「だれのどの行動がいちばん問題だろうか。」ということで話し合いをさせた。

それを発表させてみると、

- A グループ……キンちゃんの行動の④に一ばん問題がある。
- B # ……全員一致で、キンちゃんの行動の③。
- C # ……女の人は、キンちゃんの④で、あとの2人は①と③。
- D # ……カンジについては③で、キンちゃんに対しては①が1人で他は全部④
- E # ……カンジのこともあったんだけど、キンちゃんの方が悪くて④が多かった。
- F # ……全部キンちゃんの④
- G # ……カンジも少しは悪いと出たのですが、全員がキンちゃんの④に問題があるということになりました。

このように、カンジについては、一応問題もあるけれども…として、キンちゃんの行動を問題とすべきだというグループの意見が多かった。これをステップとして、次の話し合いへとはいった。

- ① 「では、自分の意見を少し発表してもらおう」
- A 「カンジは、自分には罪がないと言っているのはよくないけれど、キンちゃんがまたがした方が悪いと思います」
- O 「ぼくはキンちゃんの方が悪いと思うんですけど。それは、またがししない約束で借りたのにまたがしてしまい、こわしてしまって、それを相手の責任にしているから」
- T 「責任をおしつけていること。自分の悪いのは少しも感じないで、相手が悪いといっているのはよくないと思う」
- T 「わたしもキンちゃんが悪いと思うんですけど。やっぱり、またがししない約束なのに、かしてしまったからです」
- ① 「キンちゃんの行いに問題があり悪いという人が多いのですけれど、カンジは悪くないのですか。」
- 児 (悪い)
- ① 「おかしいね。それなのにどうしてカンジのことはでてこないの」

児 (両方悪い)

T 「カンジも貸して、よく注意しないのが悪い」

S 「カンジは初め、無理に言われて貸したのはそんなに悪くないけれど、こわれてしまったから、自分は悪くないと言って、キンちゃんに責任を全部おしつけているから。両方とも問題があると思う」

H 「カンジは弟にもさわせないものを貸したくせに、相手がこわすと自分に責任がないと言っている。キンちゃんは、またがしたことも悪いんですけど、こわした人に責任を全部おしつけているところがうまくないと思います」

① 「どうやら、カンジにも、キンちゃんにもどちらにも問題とすべき点があるということにおちつきそうですね。では、これから、「キンちゃんやカンジは、どうすればよかったのか」「『友情をうら切られた』などと言っているが、『友情』とはどう考えたらいいのか」ということについて考えていってみましょう。

以上のようにして、ひじょうに遠回りのようではあるが、キンちゃんとカンジどちらにも問題とすべき行動や考えのあることに気づかせ、全体として話し合う方向を決めたわけである。と同時に、児童からは、それほど数多く出たはこなかったが、大事なことである「友情についてどう考えたらよいか」という問題も教師の側から付けて、問題をしっかりと握る段階を終えたのである。(「友情」についての問題が、話し合いの中からじょうずに導き出せなかったのは、教師のいたらぬところであり、適切な指導が行われれば、問題点として取り上げられてくることと思う。)

以上のような過程を経て、学級全体として重点的にとり上げたい事項がまとまったわけである。ひじょうに時間をかけて、以後の話し合いに支障をきたさないだろうかと心配されるむきもあるかと思うが、これまでに、各自がノートに記述する時点で考え、グループの話し合いの時点でも考えているので、かなりの話し合いが進んでいると考えてもよいわけである。そのため、これからの話し合いは、全く始めからのスタートではないだけに、児童各人の理解も深く、心構えも整い、ふんい気もつくられているので、思ったより以上にスムーズに展開できたと思っている。

4. 終わりに

以上、テレビを視聴してから、「何について話し合うべきか」という問題の決定までを、ときには、児童にじっくりと考えさせ、話し合わせてはどうだろうかという点について述べてみた。ごくふつうの、ふだんの授業で、細かな指導案もなく、ありふれたごくあたりまえの展開であり、細部にいたっては問題点だらけのものであると思う。こんな事例を述べさせていただいた上には、次のような意図もあることを御理解いただけるとまことにありがたい。

以前、わたくしは、何かの機会に「テレビを見せるだけでもいい」と言うか書くかしたことがあったように記憶している。このことの本意は「道徳の授業をしないよりは、テレビを見せるだけでもいいからしてほしい」ということにある。

しかし、テレビを視聴する学校がふえてきている現段階においては、見せるだけに満足してい

はいけないと考える。テレビを視聴させたら、書かせたい。書かせたら話し合わせたい。このように希望が大きくなりつつある。

ここに述べた事例は、ひじょうにまとまりのない、つたないものであるが、こんな気持ちのあるところをおくみとりの上ごらんいただいて、御批判、御指導をお願いしてむすびとする。

評

「児童に自ら問題を見出し、解決していこうという意欲や能力を身につけさせる」ためには「児童の日常生活に直結するような強い問題意識」を引き出していく必要があると述べていることは卓見である。筆者の資料選定の視点は明確に、ここにすえられていたと思われる。

つぎに、児童がホンネを発表することと、集団の中で学習することとは矛盾するものである。それを統一していくところに資料の大切なはたらきがあると思われるが「登場人物に対する批判」という型を通して、「児童各人の生活に対する考え方・生き方」ととらえていきたいという考え方には注目したい。道徳の時間に限らず他の学習活動におけるすべての場において、そこに表出されてくる児童の行動の背景にあるものを洞察していく力、すなわち、教師の人間理解の確かな姿勢をおたがいに常に養っておきたいものである。

なお、指導方法の研究は指導過程とあわせて考えられるべきものであること、道徳の時間は一時間、一時間の指導がそれぞれ、道徳的価値は握のための明確なねらいをもっていることを再確認しておきたい。